

会報11号

2015年4月25日

電話 075-691-7561
 発行責任者 木村信彦
 編集責任者 石田房一
 編集 清水美優・西片里紗
 印刷 松田誠二

吉祥院六齋歴史研究会 獅子の如く

京都 獅子の如く 吉祥院

吉祥院六齋念仏踊り 重要無形民俗文化財指定

国の重要無形民俗文化財指定
 吉祥院六齋念仏踊り



It has been designated an Important Intangible Folk Cultural Property.
 Kissyoin Rokusai Nenbutsu Odori, designated in 1983.

後編 獅子の如く第十号記念対談

技術的に優れた実力者のみが
 檜(ひのき)舞台に上がれる厳しい時代



吉祥院六齋保存会
 木村俊典会長
 に聞く

座談会日
 平成二十六年七月十八日(金)

六齋の火は絶対に消せません

■六齋の最盛期は、吉祥院地域だけでも多くの六齋組があったと聞いています。

木村 菅原組をはじめとする、東条組、西条組、北条組など、八組もの六齋組がその芸能を競っていました。

■吉祥院は京都で一つの中心でもあったといえますね。

木村 天満宮大祭は、そうした六齋組の競演の場でした。戦前までは、久世地域やその他から来演もあって、八月二十五日の一日では終わらず、翌日まで行う場合がしばしばあったと聞いています。その頃の六齋は、青年会が管掌しており、十五歳から三十歳位までの青年で構成され、会長(年頭という)の統率のもとに団結を誇り、六齋の伝承に大きな力を持っていました。

■青年会は、その後、共親会として発展するんですね。

木村 共親会でも十五歳で入会し、三十歳まで在籍し、こ

の間、厳しい稽古を受けて得意不得意によって役柄が決まりま

す。繰り返すうちに稽古が深まり、入会して約三年は「茶番」で雑用係を務めて稽古を積み、当然、太鼓などは打たせてもらえないし、青竹を太鼓代わりに叩いたり、歌(口唱歌)を口づさみながら、それを打って芸を習得したと聞いています。

■共親会でも三十歳位で退き、以後五年間は世話方として後輩の指導に当たるわけですか。

木村 その後、年寄となり、このうち特に技が優れた者が師匠役になり、これを「中老」といいます。この共親会がすなわち、六齋組になります。それは年齢集団に他ならなかったから、町内の青年は、すべて共親会に加入するならわしで、よほど稽古して上手にならなければ、吉祥院天満宮のひのき舞台には立てなかつた。

■資料によると、吉祥院(菅原組)六齋組も第二次大戦を境に衰退し

はじめますね。

木村 戦後には五組に減り、昭和三十年代には、一組だけになり、私たち菅原組が吉祥院六齋として受け継いでいます。

■絶対に六齋の火は消せませんね。

木村 地域の文化を何としても守らなければなりません。子ども六齋会も十八年目に入り、また、六齋歴史研究会の若い会員が中心に保存会組織へと伝承基盤の拡大強化が計られつつあるので、後継者難にもかかわらず、吉祥院地域の伝統芸能を伝える環境が徐々に出来つつあると感じています。

■その一つに吉祥院六齋歴史資料展示室を活用した取り組みが重要になるといいます。

木村 人権フィールドワークとして、学校や企業等が積極的に



吉祥院子ども六齋会の4名が四つ太鼓を披露
 三木のぞみ・諸本有咲美・諸本侑磨・中村晃輔

保存会・子ども六齋が共演 滋賀県野洲市

吉祥院六齋担い手育成基金「吉祥院六齋サポーター」にご登録いただいている企業や組織の皆様をご紹介させていただき、敬意を表します。

NPO法人ふれあい吉祥院ネットワーク
 理事長 野村良博
 (指定管理施設) 京都市いきいき市民活動センター
 センター長 石田房一

解放新聞社京都支局
 〒603-8151京都市北区小山下総町5番地の1
 京都府部落解放センター内 代表 西島藤彦

株式会社新井建設工業
 〒601-8364京都市南区吉祥院石原南町16-24
 代表取締役社長 新井正幸

吉祥院人権啓発企業連絡会
 会長 西留哲郎

企祥会
 代表 山中兼一

岩本建設株式会社
 〒601-8361京都市南区吉祥院石原京道町31番地
 代表取締役社長 岩本俊博

地域の伝統行事を守る 子ども神輿が巡行

毎年、四月二十五日は吉祥院天満宮で春季大祭が行われます。この日は、菅原町内会の伝統行事である「子ども神輿」が巡行され、地域の子もたちが揃いのはつぴを着て元気に神輿を引きます。



吉祥院天満宮の神事では、午前十時より執り行われ、五穀豊穡や氏子の安全の発展を願って毎年四月二十五日に行われます。

吉祥院天満宮春季大祭に合せ、菅原町の「子ども神輿」が巡行が行われます。

子ども神輿は、吉祥院いきいき市民活動センター(高齢者ふれあいサロン)に祭られ、そこから行列を組んで吉祥院天満宮に運ばれます。子ども神輿が本殿内に入れられ、神輿に参加する関係者を祓い清めます。

その後、神事が行われ、最初、左右にお供えされた神饌などを



吉祥院天満宮本殿内に入り、子ども神輿を祓い清められます。(一昨年の春季大祭の様子)

一昨年、子ども神輿や地藏盆の地域行事が存続の危機もありましたが、町内会新役員やNPO法人ふれあい吉祥院ネットワーク、バンブーヒップが地域の思いを引継ぎ、子ども神輿の巡行を受け継ぐことになりました。地域に伝わる伝統芸能や伝統行事を継承して行くことは、かなりの努力と困難さを要するが、貴重な文化財や行事を次世代に残すという面で重要です。このことを通じて地域に誇りと愛着をもたらし、地域共同体に果たす役割も大きい。

この数十年の歴史を振り返ってみると、高度経済成長期の社会情勢の変化で、まちの貴重な伝統文化や地域行事が簡素化されてしまったり、場合によっては失われてしまったところも多々ありました。

バンブーヒップ 地域行事を支える

これらの文化財は、地域の人たちのみならず日本文化の貴重な財産であり、この宝物とも言ふべき文化が失われて行くことは非常に残念です。



子ども神輿が練り歩く(写真2014年春季大祭)

担しながらも相互に補い合うことが本来のまちづくりのあり方ではないでしょうか。伝統文化財や伝統行事が受け継がれていることは、まちの求心力がすでに存在していますから、ある意味、羨ましい「まち」に任んでいると言えます。この誇るべき吉祥院地域に住む人たちがまちの貴重な伝統文化財の継承のために、これからも力を尽くしていただければ幸いです。獅子の如く統括顧問 石田房一

資料室を見学



(右) 説明する木村室長

二月一日(日)、吉祥院六斎歴史資料展示室に二名の方が見学に来られました。木村俊典資料室室長が説明され、吉祥院六斎念仏踊りの写真パネルや貴重な衣装などを見て、改めて六斎の歴史を感じられていました。



吉祥院小 六斎を学ぶ

木村信彦会長に質問する子どもたち

二月九日(月)、吉祥院小学校三年生(三クラス)が六斎歴史資料展示室を見学し、六斎の歴史について学びました。研究会から木村信彦会長と広報部の清水美優、西片里紗が先生役になり、六斎の魅力子どもたちに伝えました。中でも獅子を演じている木村会長の太腕の筋肉に

三月十四日(土)京都市「南部まち美化スプリングフェスタ」が開催され、吉祥院子ども六斎会が出演しました。朝からの雨もすっかり上がり、特設ステージ上で元気に子ども六斎会の太鼓が披露されました。

スプリングフェスタ



興味を示し、「腕を触らせて」「めっちゃかたい」と大騒ぎで、木村信彦会長もタジタジでしたが「六斎を伝えるため、とても良い経験ができた。六斎は吉祥院の地域ブランドなので、六斎を子どもたちに伝えたい」と話しています。獅子の如く編集部 西片里紗

獅子の如く総会開く
三月十三日(金)高齢者ふれあいサロンで幹事会・総会を開催しました。
二〇一五年度 役員は次に通ります

吉祥院六斎担い手育成基金「吉祥院六斎サポーター」にご登録いただいている企業や組織の皆様をご紹介させていただき、敬意を表します。

<p>清華園 〒600-8202京都市下川区川端町11 ☎ 075-351-8391 店主 清水 悟</p>	<p>平井 斉己 Toshiki - Hirai</p>	<p>武田 徹 Touiru - Takeda</p>
<p>井上工業所 〒601-8395京都市南区吉祥院中河原西屋敷町21-1 ☎ 075-311-7430 代表取締役社長 井上孝司</p>	<p>㈱ダイヤ・セキュリティ・ジャパン 代表取締役 石井啓介</p>	<p>株式会社 西建 〒601-8343京都市南区吉祥院稲葉町31番 ☎ 075-661-2929 代表取締役 西留哲郎</p>